

# 多様な公共空間の利活用実態にみる占用許可や支援制度の課題

- 大分市中心市街地における民間の運営主体によるイベント開催を事例として -

○林成峻\* 姫野由香\*\* 佐々木美祈\*

\* 大分大学大学院工学研究科博士前期課程 \*\* 大分大学理工学部・准教授 博士 (工学)

## 1 研究の背景

過疎化や少子高齢化が進む日本の都市再生にあたって、**都市の魅力向上**させ、**まちなかに賑わいを創出**することが求められており<sup>1)</sup>、その方策として、**公共空間を利活用する取り組みが広がっている**

- 大分市中心市街地
- ・1996年「大分駅周辺総合整備事業」⇒JR大分駅南側の大規模な区画整備事業
  - ・2013年7月「大分いこいの道」の共用開始
  - ・2019年8月「祝祭の広場」の整備
- 多様な公共空間が存在し、公共空間の利活用のためには、どのような条件や対策が求められているのかを明らかにする必要があります**

1) 国土交通省「居心地良く歩きたくなる」まちなかづくり～ウォークアブルなまちなかの形成～ [https://www.mlit.go.jp/toshi\\_machi\\_tk\\_000072.html](https://www.mlit.go.jp/toshi_machi_tk_000072.html)

## 2 研究の目的

- 大分市中心市街地の公共空間を占有した**イベント実施実態**、
- 大分市の占有許可手順を空間種別ごとに整理し**公共空間占有の特徴と課題**、
- 公共空間の利活用を行う**民間の運営主体が抱えている課題**を明らかにする

## 3 研究の方法

- COVID-19の流行前後の大分市中心市街地における公共空間利活用事例の収集  
【前】2016年1月～2017年12月 【後】2021年1月～2022年12月
- 公共空間の占有許可手順の特徴を**空間種別ごと**に整理し比較
- 収集した利活用例から空間種別ごとの計4事例を選定しヒアリング調査

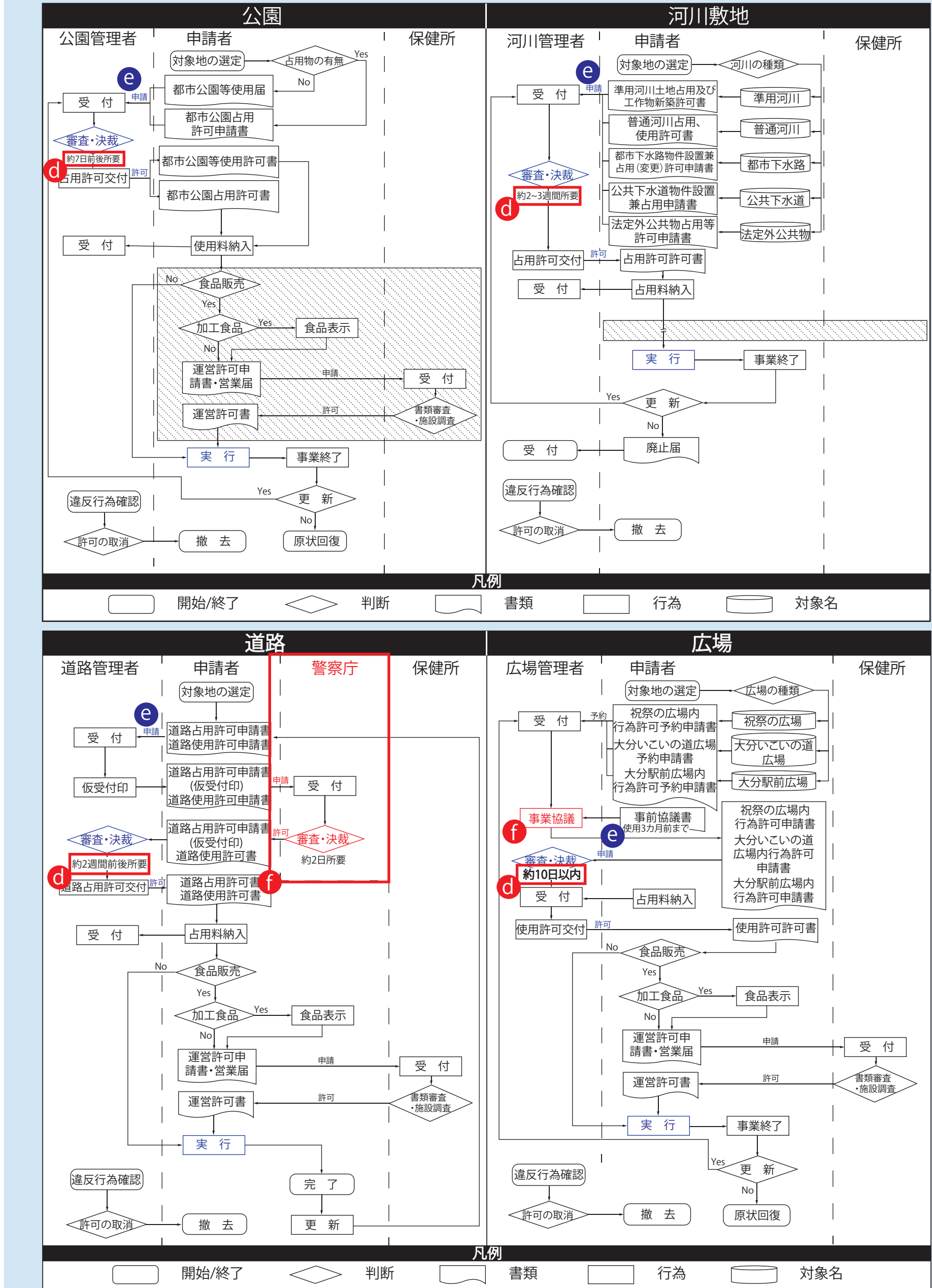


大分市における公共空間の利活用様子

2) おおいたんフェス (2022) <https://www.facebook.com/oaitanokai/photos/a.106914091817201/177200714788538/> (参照 2023.04.07)

## 5 大分市における公共空間占有許可の現状

公共空間は種別ごとに管理主体が異なるため、受付窓口と申請書類が異なる  
⇒民間の運営主体による公共空間の利活用の負担になっているとされ<sup>3)</sup>、  
国はワンストップ窓口の設置を推進しているが、大分市では設置されていない



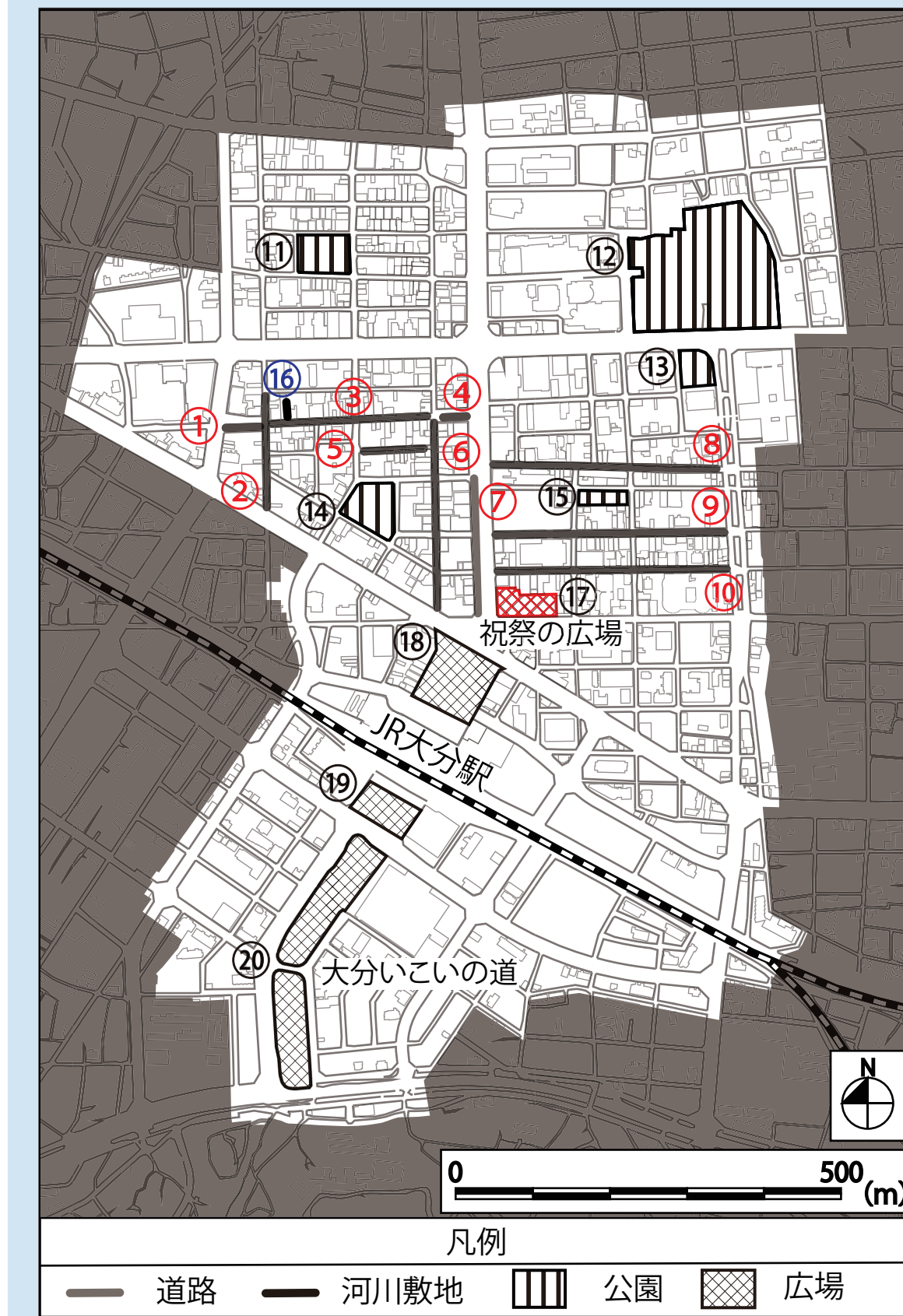
大分市における公園、河川敷地、道路、広場占有許可申請の手続きの流れ

- d 占有許可期間**  
短いものでも約1週間を要し、長いもので約3週間以上の期間が必要  
⇒利活用実施まで時間がかかる
- e f 占有許可の流れ**  
道路：警察庁の使用許可が必要  
広場：占有許可申請前に事業協議必要  
⇒利活用に労力を要する

- イ. 歩行者の回遊性や都市の魅力向上を目的に整備された公園、広場に比べ、道路、河川敷地では利活用の実施まで2週間程度の時間を要する (d)
- ロ. 公共空間種別ごとに占有許可申請の手続きの流れが異なる (e f)

3) 国土交通省都市まちづくり推進課 (令和2年3月)「公共空間利活用等のための行政によるワンストップ窓口事例集」

## 4 大分市中心市街地における公共空間利活用の変化



過去まちなかの賑わい創出に寄与するイベントが実施されていた大分市中心市街地の公共空間  
道路：10か所 河川敷地：1か所

イベント収集結果

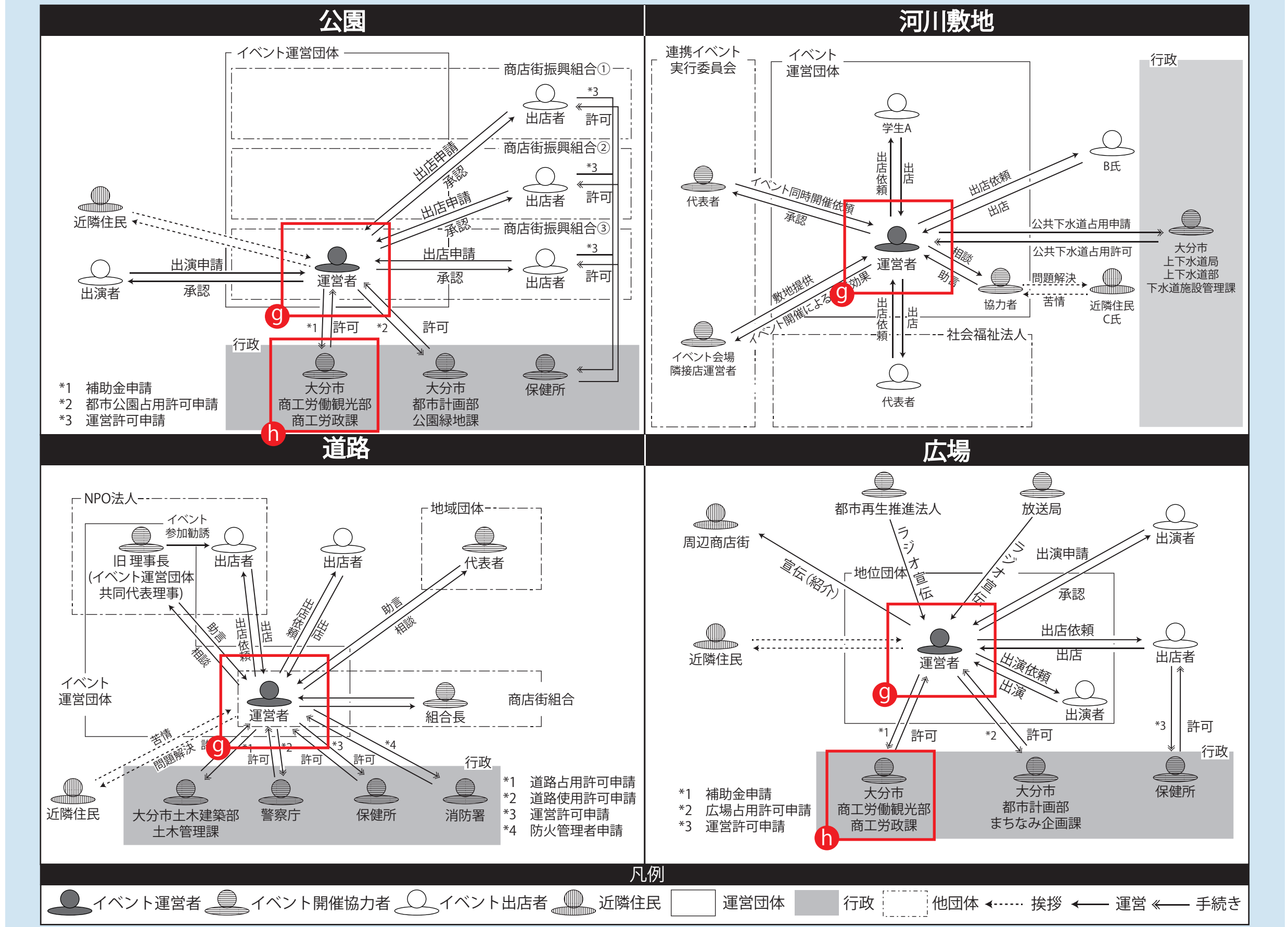
件数 (祝祭の広場の件数)	道路 (1~10)		公園 (11~15)		河川敷地 (16)		広場 (17~20)		総計		
	【前】	【後】	【前】	【後】	【前】	【後】	【前】	【後】	【前】	【後】	
イベント数合計	166	33	18	7	0	1	61	110(81)	245	151	
使用率 (%)	68	22	7	5	0	1	25	73(54)	-	-	
行為の分類	飲食	12	14	9	4	0	0	19	30(15)	40	48
	物販	59	9	3	1	0	0	21	28(17)	83	39
	鑑賞	89	22	17	7	0	0	32	88(69)	138	117
	参加	30	11	3	2	0	0	23	31(17)	56	44

- a イベント数に着目**  
イベント開催数減少  
【前】245件 【後】151件
- b 使用率に着目**  
【前】道路：68%  
【後】広場：73%  
⇒「祝祭の広場」(2019)の整備が影響
- c イベント行為に着目**  
【前】【後】共に「鑑賞」が最も多い  
道路：「物販」公園：「飲食」広場：「参加」約3割  
⇒空間種別ごとにイベントの行為に傾向がある

COVID-19の影響：公共空間利活用数減少  
広場の整備 ⇒ 利活用が容易な公共空間の確保  
⇒ 利活用される空間の場所や種類の偏りを助長  
しかし、新しい利活用も生んでいた

## 6 公共空間の利活用実態からみた今後の課題

民間の運営主体による公共空間の利活用実態と利活用実施における課題を把握するため、空間種別ごとに調査対象事例を選定し、ヒアリング調査を実施  
対象事例は民間の運営主体が主催するイベントを空間種別ごとに1事例の計4事例を選定



- g イベント運営実態**  
運営全般の業務が運営主体に集中  
⇒運営主体のイベント運営に対する経験や能力の差がイベント実施に大きく影響する
- h 補助金や支援制度**  
広場、公園：補助金制度活用中  
道路：あえて利用していない 河川敷地：把握していない  
⇒イベント運営に関する支援施策が十分周知されていない、要件や目的が正しく理解されていない課題がある

ハ. 運営主体の経験や運営能力など力量の差により、運営に支障が生じる (g)  
ニ. イベント運営に関する支援制度が十分周知されていないことで、活用されていなかったり、その要件や目的が正しく理解されていないため、あえて支援制度を活用していない (h)

## 7 総括

本研究では公共空間の利活用に関する占有許可や支援制度の課題を明らかにするため、大分市中心市街地における公共空間の利活用実態を調査し、空間種別ごとの占有許可申請手順を整理した。また、運営主体へヒアリング調査を行い、運営主体が抱える課題を把握した。  
その結果、COVID-19の影響で公共空間の利活用数が減少するなか、**利活用に容易な公共空間の整備は利活用される公共空間の場所や種類の偏りを助長する一方で、新しい利活用を生んでいたことが明らかになった。**また、**公共空間の利活用を行う民間の運営主体にとっての課題(イ、ロ、ハ、ニ)**が明らかになった。  
上記の課題より、行政による支援施策の意図を正しく理解し、民間の運営主体の力量の差を埋めることが公共空間利活用の推進に繋がると考えられる。従って、**行政と民間の仲介役を担う都市再生推進法人による民間の運営主体への助力**が課題改善策として考えられる。